”農地・水・環境保全”
水土里のネットワーク通信

＜ 第 40 号 ＞
２０１１．２．１発行
島根県農地･水･環境保全協議会

報告:『環境農業』シンポジウム

生物多様性と「環境農業」

～多様な生きものを育み、豊かな文化、地域、環境づくりを目指す農業を見つめる～

１月２２日（土）に、松江市の「くにびきメッセ」にて、県・ＪＡ島根中央会・ＪＡ全農しまねの主催で、『環境農業』シンポジウムが開催されました。

当日は、農地・水・環境保全向上対策の活動組織や消費者など約 350 人の方々が参加し、環境農業の意義や先進的取組の紹介などに関する講演や活発な意見交換などが行われました。

まず、松尾副知事の挨拶があり、次に『環境農業』大賞の表彰式が行われました。

〈平成２２年度　しまね『環境農業』大賞　受賞者〉

『環境農業』大賞（知事賞）	松浦造園グループ(松浦造園㈱・㈲宝箱)	【松江市大庭町】
優秀賞	長江米エコ栽培グループ	【松江市西長江町】
優秀賞	山陰やさい家族	【松江市学園】
審査員特別賞	三井野原出荷組合	【仁多郡奥出雲町】

４団体の受賞者の中から、優秀賞を受賞された長江米エコ栽培グループの大井川氏より、地域の「環境を守る米づくり」の取組が発表されました。長江グループは農地水の共同活動にも取り組まれ、木質堆肥を使った土づくりと化学農薬・化学肥料を使わない栽培方法での米づくりや、田植えから収穫までの年間を通じた消費者との交流などを通じて、有利販売や地域の活力に繋がる活動を展開されているということです。

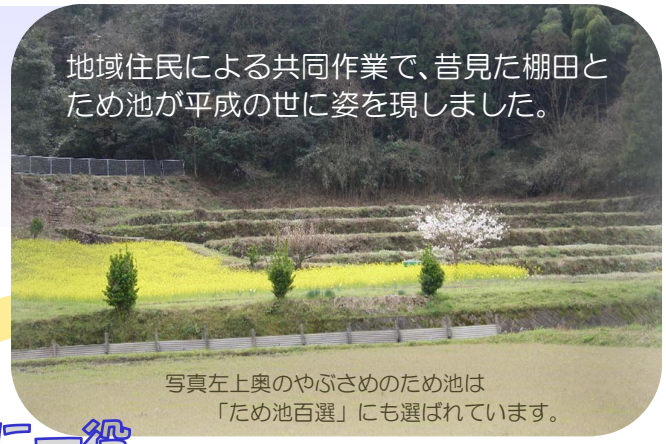
つづいて、基調講演があり、「農と生物多様性」と題してＮＰＯ法人田んぼ　理事長の岩渕成紀氏から、ふゆみずたんぼ（冬期湛水水田）をはじめとする環境農業の意義や田んぼの生き物調査の活動が紹介され、「小さな田んぼでの循環が地球の大きな循環の要を握っている」と講義されました。

その後に、新潟県佐渡市農林水産課　渡辺竜五氏による「朱鷺（とき）と暮らす郷　生物多様性保全と佐渡米のブランド化」では、人と朱鷺（とき）とが共生する島づくりを目指し、朱鷺（とき）をシンボルとした生きものを育む農法の普及や米のブランド化を実践する取組が紹介されました。

最後の意見交換でも、会場から多くの意見や質問があり、環境農業への意識の高まりを感じる大会となりました。

「棚田の復活」をきっかけに
市山環境保全会（江津市）

それは「やぶさめの棚田を復活させてみては」という一言から始まりました。



地元小学校の総合学習に一役

棚田を利用しての「稲作体験」や周辺小川の「生物観察」を通して、自然や生物と係わる農業の有意義な体験をしてもらいました。

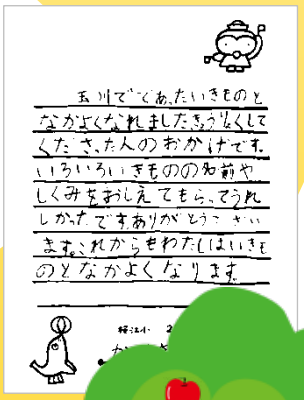
地元有機農家を囲んでの勉強会

周辺の小川で生物観察

田植え体験

みんなで黒米給食

校長先生指導の脱穀体験


玉川でそだてたいきものとなかよくなれましたきょうなくしてくださったみんなのおかげです。いろいろいきものの名前やしくみをおしえてもらってうれしかったですありがとうございます。これからもわたしはいきものとなかよくなります。

みんなに活力を与える源に

小学生が収穫した「黒米」は、収穫祭にて地元住民と喜びを分かち合うと共に、地元社会福祉協議会に贈呈し、高齢者向け給食に活用してもらっています。お弁当を受け取られた方は「楽しみにしていました。 黒米は健康に良いし、美味しいです。ありがとうございます。」と嬉しそうでした。活動に参加できない高齢者の方々も、間接的ではありますが活動の意義を感じ取って頂いていると思います。そして、楽しみが明日への活力につながることを願いこの活動を今後も継続していきます。

大成功に満足

収穫祭では
30mの黒米入り巻きずしに挑戦！

高齢者向け給食「ニコニコ弁当」

※収穫祭等の活動は、島根県の「実証！『地域力』醸成プログラム」の助成金が活用されています。

活動のポイント　Vol.7

大雪による各施設の倒木処理について

　見回りの結果、水路や農道等に倒木がみられ通水や通行に障害が生じている場合、農地・水向上活動「異常気象等後の応急措置」で倒木処理が行えます。

★施設を管理している関係機関に連絡します。
★倒木や施設の状況等を具体的に把握し、倒木処理の時期や方法を決定します。

★倒木を切り倒す際や処理の際には、必要に応じて森林組合、専門業者等へ委託出来ます。
★倒木等の所有者との間に調整が必要になる場合あるので気をつけましょう。

★倒木を処理する際は、事前に運びやすい長さに切断しておき、通行等の邪魔にならないようにしましょう。

～中山間地域コミュニティ再生重点プロジェクト事業報告会～

「これからの地域運営の仕組みを考える！」が開催されます。

日　　時　２月１１日（金／祝）１３時から１７時まで
場　　所　サンレディー大田「ふれあいホール」（大田市大田町大田ロ 1329-9）

　当日は、県の中山間地域活性化の重点テーマである「持続可能な地域社会の仕組みづくり」を目指し、平成２０年度より中山間地域コミュニティ再生重点プロジェクト事業のモデル地区の方々や社会教育、地域福祉、集落営農、農地・水の事務局の方々をパネリストに迎え、中山間地域の地域コミュニティについて意見が交わされます。
　それぞれの方の実体験はみなさんの地域づくりに大いにヒントになることと思います。ぜひご参加頂き、今後の活動にお役立て下さい。

【内容】
○事業概要説明・成果報告
○パネルディスカッション　第１部
　　「人がつながる、未来につながる、新たな地域運営の仕組みづくり」
○パネルディスカッション　第２部
　　「現場は一つ。地域コミュニティ活動支援を考える」

申込方法　島根県地域振興部地域政策課しまね暮らし推進室へ FAX かメールにより、２月４日（金）までに申し込んでください。
なお、間に合わない場合は、当日会場へ直接来られても構いません。

問合せ先　島根県地域振興部地域政策課しまね暮らし推進室
中山間地域支援グループ　担当　畑山
TEL：（０８５２）２２－６４４９　FAX：（０８５２）２２－６０４２
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：hatayama-tsune@pref.shimane.lg.jp
詳しくは　しまね暮らし推進室　検　索

※この報告会に参加され地域のみなさんに周知されることで交付金からの旅費等の支出も可能です。

耕作放棄地解消実践研修会（1月18日出雲市役所くにびき大ホール）に参加しました。

研修会では、解消に向けて取り組む農業団体や行政関係の代表者５人から発表があり、営農組合による飼料米の作付け事例や、新規に畜産業に参入した建設会社による牧草の作付け事例等の報告がありました。

当日は、農地・水の活動組織からも 40 名 22 組織の方が参加されており、県内の耕作放棄地（約 5,500ha）を解消するための取り組みや、食糧自給率を高めるための農地の確保について、また耕作放棄地の再生が地域の景観の改善にもつながっていくことなどを、熱心に研修されていました。

★今月の予定★

９（水）～１０（木）	市町村担当者会議（「農地・水保全管理支払交付金」、「環境保全型農業直接支援対策」）

ちょっと一息
おたよりコーナー

山間を縫って続く水路補修
飯谷（いいだに）地域農地・水・環境保全活動推進協議会（大田市）

私たちの地域では、山間を素堀の水路が続いています。重機等も入らずコンクリート製品の持ち込みが困難な箇所の補修には、塩ビパイプやスパイラル管を接いで水路補修を行っています。補修した水路の長さは4年間で3Kmにも及びます。受益者の皆さんからは、一定の水量が確保出来るようになったとみなさんに大変喜ばれています。

スパイラル管

塩ビパイプやスパイラル管は軽量で作業がしやすく、またスパイラル管は曲がりくねった箇所の設置には最適だそうです。落ち葉など堆積物を除去する心配も要らず、高齢化に悩む飯谷地域では大変助かっているそうです。

【投稿規定】

郵便番号、住所、氏名、電話番号、組織の方ならば活動組織名を明記。
郵便、ファックス、メール、電話での投稿。次号への掲載は、前月２０日ころまでに必着。
宛先は、〒690-0876 松江市黒田町 432-1　水土里ネット島根「おたよりコーナー」係。
FAX 番号（0852）24-0848、電子メール shigenhozen@shimanedoren.or.jp

～担当者の声～

佐渡トキ保護センターのトキ４羽が分散飼育のため出雲市にやってきました。佐渡のトキや豊岡のコウノトリの野生復帰への活動は、人と自然、環境と経済の共存を目指す取り組み。エサ場としての水田再生は農業と環境保護を繋ぐシンボル的な存在でもあります。次年度から生物多様性保全を目指した環境保全型農業直接支援対策も始まる予定。トキの来県を契機に環境農業への気運が更に高まるよう努めていきたいと思います。（協議会　M）

～農地・水・環境保全向上対策に関することは！～

◆島根県農地・水・環境保全協議会まで
〔事務局〕水土里ネット島根　　Tel 0852-32-4144　　Fax 0852-24-0848
http://www.nouchimizu-shimane.jp
◆島根県農林水産部農村整備課資源保全スタッフ（共同活動）　Tel 0852-22-6262
〃　農畜産振興課有機農業グループ（営農活動）　Tel 0852-22-6477
http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/nougyo/kojo_taisaku/
◆又は県内各農林振興センター、最寄りの各市町村担当課までお問合わせ下さい。

宇山みどりネット（雲南市）